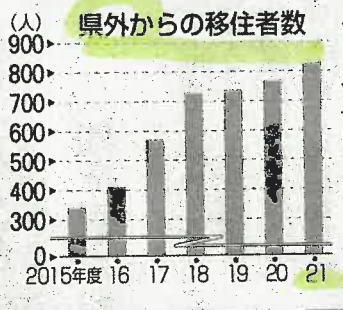
北日本新聞

県内移住 最多823人

21年度 20～40代 8割近く

2021年度の県内への移住者は823人で、過去最多だった。12年連続で最多を更新しており、世帯主で見ると、20～40代が全体の8割近くを占めた。県が16日、発表した。新型コロナウイルスの感染拡大で、地方への関心が高まっていることが一因とみている。



移住者は、県や市町村の相談窓口を通して県内に移り住んだ人数で、大学新卒のUターン者は含まれていない。21年度は20年度より59人増えた。

市町村別の移住先は、富山市が最多の149人で全体の18%。次いで高岡市の138人、南砺市の119人、黒部市の88人などだった。黒部、氷見の両市は20年度より30人以上増え、総数を押し上げた。

移住した世帯数は468世帯で、世帯主の年代別では20代が最多の157世帯と全体の33%だった。30代が138世帯で29%、40代は72世帯で15%と続いた。20～40代で78%を占めた。

首都圏からの移住が多く、都道府県別で最多は東京都の191人、次いで石川県の163人、神奈川県の70人、愛知県の56人、埼玉県の53人だった。

県は従来から移住促進を主要施策に位置付けており、石井隆一前知事時代の20年3月につくった「とやま未来創生戦略」では、24年度に1千人の目標を掲げる。20年11月に就任した新田八朗知事も公約で、県の移住支援制度の充実を掲げた。オンラインセミナーの拡充や都内での相談会開催などに取り組んでいる。

増加の理由について、県移住交流課は「コロナで地方移住への関心が高まりリモートワークも広がっている」と説明し、「目標達成に向け、さらに施策を強化したい」とした。

県内の市町村別の移住者数

移住先	移住者数
富山市	149
高岡市	138
射水市	39
魚津市	43
氷見市	73
滑川市	30
黒部市	88
砺波市	54
小矢部市	53
南砺市	119
上市町	8
立山町	4
入善町	3
朝日町	5
舟橋村	7
不明	10
計	823

岩壁から転落 男性頭部骨折

立山 クライミング中

16日午前10時55分ごろ、立山町芦峅寺の雑穀谷（標高約760㍍）で、ロッククライミングをしていた富山市稲荷元町、団体職員、大島健一さん(48)が約5㍍転落し、ドクターヘリで県立中央病院に運ばれたが頭の骨を折る重傷。

上市署によると、大島さんは仲間と2人で岩場を登っていた。高さ約20㍍の岩壁にある「不二越」と呼ばれる中級ルートで、15㍍付近のオーバーハングを越える際に転落し、岩場に頭をぶつけたとみられる。ロープで安全を確保していた仲間が大島さんを下ろした。ヘルメットを着用していなかったという。

現場に居合わせた休暇中の県警山岳警備隊員が立山町消防署に通報して応急処置した。

身代わりで家族出頭

県警 駐車違反の巡査減給

駐車違反を免れる目的で県警の巡査が家族を身代わりに出頭させたとして、県警がこの巡査を減給1カ月の懲戒処分としていたことが16日、分かった。処分は4月28日付。

監察官室によると、巡査は2月中旬に富山市の知人宅前で駐車違反し、警察署に出頭を求められた。家族が出頭した際に不審な点があったことから県警が捜査し、身代わりが判明した。

県警の聞き取りに、巡査は「違の仕事い、家めてい

監察してお誠に連指導をして、

―

成長」

に県民栄誉賞

感謝強調 活躍へ決意

「応援してくれた皆さんや家族の支えで、ここまで成長できた」。16日に富山市内のホテルであった県民栄誉賞贈呈式で、川除大輝選手(21)は感謝の言葉を強調した。日本パラスキー距離界のエースとして挑んだ大会で、悲願の金メダル獲得。会場で穏やかな表情を見せながらも「パラ競技やクロスカントリーはまだマイナー。知ってもら

と振り返えると、川除選手が思わず赤面する一幕もあり、会場は和やかなムードに包まれた。